

義太夫

義太夫協会々報
第23号

昭和56年7月20日
社団法人 義太夫協会発行
〒104 東京都中央区銀座
8-14-3 松本ビル
TEL (541) 5471

季節は梅雨、女義は日本晴れ

義太夫協会会長 吉川英史

六月二十日の本牧亭の女流義太夫の会は超満員であった。竹本喜久太夫さんと豊沢みどりさんの対談による「義太夫三味線について」の話をお客席で聞いていたわたしは、「義太夫節の特徴について」の話を舞台でして客席にまどろうとしたが、もう満員で、席を取るこ

とがむずかしくなっていたので、わたしは舞台裏の通路におかれていた椅子に腰かけて熱演に耳を傾けることにした。
本牧亭の女流義太夫の会が満員になるのは、年末の「忠臣蔵」特集くらいであったが、今回の盛況ぶりは、そんな程度ではなかった。月例の会と違うのは、高校および中学の教師

のための講習会であった点であったが、従来も講習会があったが、このような盛況はなかった。演奏もベスト・メンバーの熱演であったが、この点でも従来と特に変わった会だとはいえない。それに、良い演奏だから満員になったとはいえない。来てみたら良い演奏であったということである。

結局、単に演奏ばかりでなく、講演または解説が付くという企画であったことのほかに新聞やロコミでの宣伝もよろしきを得たこと、あのような超満員の大きな原因であったと考えられる。この点は今後、企画・宣伝に当たる人が大いに参考にすべきことであろう

と思う。

六月二十四日の国立劇場演芸場の「女流義太夫の会」は、早くから満員札止めという前景気の良さに驚いた。補助席も満員で、立見席まで用意された。演芸場としても記録破りの入場者数だったのであるまいか？！
従来の三越劇場での公演と比較して入り良かったのは、一つには昼の公演でなく夜の公演であったことと、国立劇場の公演は宣伝が行きわたるためと思われる。もちろん、女流義太夫のベスト・メンバーの番組による点も、盛況の重大な原因ではある。

とにかく、女義の実力は今回の演芸場の公演で立証されたことと思う。この上は、小劇場で「女義の今昔」というような企画、あるいは、文楽の人形を使っての女義の演奏が企画されるなら、必ず成功するに違いない。国立劇場当局の勇氣ある決断を望みたい。

それにしても、季節はうっとうしい梅雨だというのに、女流義太夫界はまるで日本晴れのような六月であった。女義の研究者であり、後援者であった岡田蝶花形および内野正幸の両先生がご存命であったら、さぞお喜びであったろうと、追憶した次第である。



暑中お見舞

義太夫節保存会々々長
義太夫協会副会長
豊沢仙広

第23号

義太夫協会々々報

1981. 7. 20

義太夫愛好者の皆様、御きげん如何ですか。この暑さを無事にお過ごし下さるようにお祈り申し上げております。協会の役員一同、元気に八月の若手勉強会の企画に取りこんでおります。若い正会員の一生懸命の舞台をお聴き下さいまして、一年間でどのくらい上達したか、アレコレ御批判下さるようお願い申し上げます。

さて、六月の国立・女流義太夫の会は、早くから切符の売切れで、当日の補助椅子も満席、立ち見まで出る盛況で、皆様からことのほかお褒めの言葉を頂き、義太夫愛好者御後援の賜と厚く御礼申し上げます。毎日同じ事をくり返しくり返し勉強した甲斐があったと感謝の気持ちでいっぱいでございます。

六月二十日の本牧亭公演（教師のための義太夫研修会）も大入満員で、座布団も足りなくて楽屋からあるだけ客席に持ち出しました。国立・本牧亭のお客様に衷心より御礼申し上げます。次第でございます。

今秋は大阪で保存会々々員の特別公演を致すことになっております。義太夫本場の大阪が何となく下火と聞いてちょっと心配しております。一年後には大阪に文楽国立劇場が出来上るのです。この特別公演で大阪の前人気を

頂きたく、東京御ひいきの皆様、大阪の知人に御連絡下され、さかさまなことながら、大阪で人氣が盛り上がるように御支援賜りたく、伏してお願い申し上げます。

新聞のニュースには、毎日のように青少年の悪遊びが報道され心が痛みますが、いやいや日本はまだまだそんなに多くの悪い子供が育ちつつあるとは思われません。在学中に興味として義太夫教室に入門、卒業と共にプロになった青少年も数多くおりますが、それはそれは礼儀正しい立派な子供さんばかりです。義太夫協会では、子供が悪くて困っているというような親御さんの話は聞いたことがありません。忠と孝の浄瑠璃の文句がいつとはなく家庭にとけこんで親子の情愛が生れるようです。親の気持を三つ子の魂から自然に受け継ぐのでしょうか。義太夫の好きな人の家庭は何となく「和」という空気に恵まれている楽しいお話を聞かされるのが度々あります。プロになった娘さんの初舞台は一家総出の応援、学生時代の友人も花束持参の応援で本牧亭において下さるのです。義理で来た友人もだんだん義太夫が好きになって、本牧亭のお客様がこの十年間ですっかり若返りました。文楽の国立公演も土日は補助椅子が出て若い

お客様でいっぱいです。

義太夫協会・義太夫節保存会は、東京の義太夫節発展、いや日本の義太夫節発展を如何にすればと、命がけでとりこんでおります。「三人寄れば文殊の知恵」義太夫節発展のための企画、ちよつとでもお気付きの点をお聞かせ下されれば幸いとお待ち申し上げております。今後の御支援、伏してお願い申し上げます。次第でございます。

***** 保存会の動き *****

3月5日 役員会 役員は56年度も継続することに決定 於新小松
4月27日 役員会 保存会法人化について審議検討 於新小松

~~~~~ 今秋大阪にて大会 ~~~~~

昨年末の三越劇場公演に続いて、重要無形文化財義太夫節保持者による第二回演奏会を行います。

※昭和56年11月26日（木）ー予定ー

※大阪三越劇場

これは、財団法人放送文化基金の助成を得て開かれるもので、当日の演奏はNHKから全国放送されることが決っています。只今、東京・大阪の保存会々々員を中心に具体案がすすめられているところ、乞御期待。

義太夫の振興発展と保存のために

河野 国 声

去る六月二十四日の国立劇場で催された義太夫会は前売中に切符が売り切れて、聞きに行けぬ人が多かったと聞いたが、これに勢いを得て、春秋二回はやって頂きたいものと思う。本牧亭の義太夫だけでは、客筋的にも、現代人に忘れられてしまう時が来る。

義太夫は古典芸術だが、その骨髄は人間を鍛える命がけの生きた禅でもある。むづかしいのは当然のこと。この極致には文楽座の専門家達にさえ理解しにくいところも有ろう。

義太夫そのものが生きた禅であることを、夙川の野澤吉兵衛名人の教えを受けたとき、師匠の人格と口伝の妙趣をしみじみと聞いて驚き、何十年も座禅した私が、義太夫の稽古で開眼した思い出がある。

今それを話そうというのではないが、昔のように義太夫が復活流行しないまでも、名人上手の型を残したい願いはやまやまである。

それには版權に関係のない古靱山城少掾、清六等の録音テープが三十段もあるし、女流でも団司、土佐広など名家の録音もたくさん頂いてある。その他にも多くの珍品があるから、これを普及し、保存し、お手本にしたらよい義太夫が永遠に残る。

義太夫がむづかしいだけに、これを国宝芸術として保存するにはこれ以外に道はない。

放送局や国立劇場などが、義太夫の名曲をたくさん秘蔵しながら、公開しないのは、芸術が人類のものであるということ知らぬもので、芸術の本城守護者の怠りだと思ふ。

文楽の太夫さんなどにも、版權などを言わずに、聴衆にも録音を取らせたり、土産物売り場などで、各師の録音何十段でも、なるべく安く売ってあげて頂きたいものである。

私は日々が多忙で全く寸暇はないが、録音テープでの義太夫保存法、普及法を思い立つてから、もう二、三千本位は、義太夫の種蒔きをした。埋もれてもよい、よい種はたくさん蒔いておくに限ると思うからである。

古靱清六が地下で、喜んでくれているかを思えば、何万本進呈しても私は嬉しい。

もし、私の趣旨にほんとうにご賛成の願える方がおありでしたら、ぜひお申越し下さい。玄素に拘らず、二十年も三十年も義太夫の名人テープを保存して、世に伝え残して下さい。お方には、テープ五、六十巻づつをお預け申し上げましょう。

たしか団司さんの芸談のなかに、「一つことを百回も稽古すれば、何でも覚えられぬことはない」と、師匠に言われた」という話。

私が八十三歳になってから、古靱太夫の忠四をおぼえて、五月初床にかけたものも、古

靱テープにどのくらい忠実か、聞きくらべていただければよくわかる。仙広師も土佐広師も、団司さんもそれを知って下さるので嬉しい。それほど録音テープでのお稽古は、丁寧忠実に何十回でも聞けるのである。私の多忙な体が、日曜日に仙広師のお宅にだけは行けるのも、義太夫なればこそ、テープあればこそである。

現代は多忙時代で、玄素の別なく時間が無いとは思ふが、テープの利用で、古靱ほどうまくならんでも、熱心にやればその十分の一覚えても大したもの、よい師の型でないと、よい芸は身につかない。その点では先代津太夫の沼津などは天下一品、その他にも名品はたくさんある。私は素養ではあるが、昔から名人上手の師匠とのみつき合っているから、よい芸に接する機会があり、幸せだと思ふが、それと同じことがテープの利用でできるのである。近頃私のところへ、テープをくれと申込まれる人が多くなったが、これは協会や保存会の事業としてやって頂きたいものである。金が無いのひまがないのというが、私は熱意が足らぬのではないかと歯痒く思っている。

玄人でも素養でも、私の事務所へ来て沢山のテープを、複写して分配するほどの協力者があれば、材料費などは全部私が負担します。広い室もあるからどんな便利もはかります。義太夫保存会ができて、現在の名人が居なくなつたとき、あとつぎも保存もむづかしくなる。今こそ、今だけと思つて、玄素共同で、普及と保存をして頂きたいと思ふ。

歌舞伎の義太夫Ⅱ竹本連中の

後継者養成事業

竹本講習について(七)

早いもので昭和五十年九月に始まった竹本講習も満六年を迎えようとしています。二年間の講習を終え現在活躍している人々は、第一期生の清太夫・国太夫、第二期の鶴沢賢治、第三期の葵太夫・重太夫・初太夫・野澤松也・鶴沢寿治郎、第四期の泉太夫・鶴沢泰二郎の十名で、その他に講習生として第五期の吉田享・貝谷隆太郎・久恒和雄・第六期の笠場章彦・高橋尚夫・高橋幹明・成田宏・計七名がおります。合計すると十七名となります。

昭和五十年当時の竹本勢は扇太夫・雛太夫・寿太夫・米太夫・叶美太夫・和佐太夫・藤太夫・秀太夫・文春太夫・君太夫・綾太夫・三味線の鶴沢扇糸・鶴沢大昇・野沢松三郎・鶴沢絃二郎・豊沢猿若・豊沢登緑・鶴沢英治・豊沢重松・鶴沢成佳・鶴沢政一郎・豊沢宗之助・豊沢義三郎の計二十三名でしたが、寿太夫・雛太夫・君太夫・宗之助の四人が物的され、扇糸・大昇の二人が高齢のため引退同様となられました。その間に豊沢時若・喜太夫がかわり、現在は十八名です。ほとんど同数ということになります。改めて考えると

誠に驚くべきことで六年前にこのことを予想し得た人は皆無と思います。一時期、竹本底のため義太夫狂言が少なくなったりしましたが近頃はそのようなこともなくなり、平均年齢もぐっと若返り、活気がでてきました。ただ喜んでばかりいられないのは、ベテランの人達と講習生出身の人達との断層が大きすぎるといふことで、それをどのように埋めるかが今日の課題になるでしょう。例えば、必ず誰かの弟子になるとか、卒業後も何年間はあるの研修を行う等々、これはベテランの方々が大きいに努力しなければならぬことで、せっかく迎え入れた若手の人達を毀してしまうようなことがあってはなりません。また若い人達は、少しも早くプロ意識に目覚め、そして先輩の人達の技芸に追いつくよう懸命の努力をしてもらいたいものです。

(つづく)

恒例 盛夏若手勉強会

— 芸団協助成 —

* 8月20日(木) 21日(金)

* 本牧亭 午後五時半開演

* (三〇〇円のとき) 一〇〇〇円

三生・越道・素八・駒龍・駒之助・朝重が、夏休み返上で、若手の勉強のため応援出演いたします。

お暑い折ですが、賑々しく御来場賜りますようお願い致します。

社団法人 義太夫協会 昭和55年度収支決算報告書

(借方) 貸借対照表(56.3.31現在)(貸方)

科 目	金 額	科 目	金 額
現金	312,577	基金	3,000,000
座預金	738,115	運用金	1,100,000
定期預金	3,000,000	前受金	966,000
普通預金	7,835	借入金	4,000,000
郵便振替	46,820	仮受金	2,500,000
未収入金	82,000	未払り金	5,284,318
敷金	500,000	繰越損益	1,487,000
什器備品	483,300	繰越損益計	△6,627,767
電話加入権	73,438	小引	1,170,955
仮払金	3,000,000	差引	△3,436,766
立替金	28,700		
合計	8,272,785	合計	8,272,785

1981. 7. 20

義太夫協会々報 第23号

損益計算書

(55. 4. 1 ~ 56. 3. 31)

勘定科目		収入の部	支出の部	差引損益
助成金	国庫補助金	4,000,000		
	日本放送協会	200,000		
	芸団協	100,000		
	寄附金	4,596,307		
	会費収入	1,338,000		
	雑収入	409,491		
(小計)		10,643,798		
事業費	義太夫教室	1,219,400	3,759,430	△ 2,540,030
	協会公演会	954,000	4,878,175	△ 3,924,175
	学校巡演	400,000	2,125,090	△ 1,725,090
	教師講習会	85,500	2,077,095	△ 1,991,595
	慈善公演会	492,367	521,610	△ 29,243
	東京都邦楽演奏会	645,500	502,000	143,500
	祖先祭	0	77,560	△ 77,560
	資料蒐集	0	156,580	△ 156,580
	研究室	0	44,450	△ 44,450
	会報	0	127,780	△ 127,780
	育成費	0	120,000	△ 120,000
	記念出版	0	97,670	△ 97,670
	記念行事	2,080,975	2,387,650	△ 306,675
(小計)		5,877,742	16,875,090	△ 10,997,348
一般管理費	事務所費		11,106	
	家賃		522,000	
	事務消耗品		87,528	
	事務費		82,300	
	給料・諸手当		1,206,000	
	交通費		170,440	
	通信費		307,360	
	交際・慶弔費		189,400	
	会議費		140,130	
	水道・光熱費		40,622	
	倉敷料		120,000	
	印刷費		44,070	
	諸税公課		10,000	
	手数料		8,660	
	宣伝費		54,000	
諸雑費		22,000		
雑損		67,600		
(小計)			3,083,216	
合計		16,521,540	19,958,306	△ 3,436,766

批評の提唱——蝶花形氏追悼——(二)

佐々木 明郎

論語第十五(第八篇上巻即ち衛靈公篇)の「君子ハ言ヲ以テ人ヲ挙ゲズ。人ヲ以テ言ヲ廢セズ。」という孔子のことばのとおり、いったことが善くてもその人が正しいとは限らず、また、実行しない人が善いことをいってもそのことばは正しい。だから前述の(編集部注・禁酒運動をし酒を飲むのはおかしい)は酒を飲む人が禁酒運動をしてもそれは、自他に迷惑を及ぼす飲みかたをするな、との意に受取ればよい。二(編集部注・言葉遣いが横柄で人を見くだす)についても、丁寧語を用いないのは倨傲不遜だからではなく、若いときから晩年まで一貫して書生氣質、今でいう学生気分を通じた氏の親しみの表現で、共に蝶花形氏人となりの天真爛漫さの証明である。

演劇評論の中で己の演技の不十分な点を指摘された六代目菊五郎が、そんならその人が演ればよい、といったのを聞いた他の人が六代目に、演技と評論とは異なる立場なのだからそんなことはいふな、と注意したところ、彼は翻然と悟り改めたという。流石不世出の名優である。小説の制作と評論との両方を行なう人もいるが大抵はいずれか一方である。優れた作家は文芸評論家に対して、そんなら小説を書いてみる、とはいわない。素人も文人

と同じく師匠を尊敬し、稽古のときは真剣にやらなくてはならないし、下手より上手なほうがよいのは当然であるが、本務があるのだから、文人のように二六時中芸を念頭に置くとか、多くの演目を消化し、上手に演ずる、等の条件が必須だというわけではない。下手も亦愛嬌であり、それなりにまじめに演ずればよい。蝶花形氏の義太夫が、仮に上手でないとしても、だから氏の批評は見当違いだ、とする考え(前述の三 編集部注・義太夫の語りが下手だから、人の語りや三味線を正しく批評できるはずがない)はまちがいである。なにごとによらず、部分に拘泥して全体のまとまりを欠くのはよくないが、全体は部分

が合体して成立つので、言語芸術の各部分の表現、特に発声・発音・抑揚から用語まで、即ち個個のことばの表現は正確を要する。名人も神ではないから誤りもあり、また、誤りもあるから人間的なのだ、師匠を神格化するあまり、その誤りを正しいとし蝶花形氏の言を誤りとする声も従来屢々聞こえ、ひいきの引倒しというか師匠の誤りを却って拡大する逆効果も過去にはときどき見かけられた。それは師匠への敬愛とは別なものである。孔子の語のとおり、前述の四(編集部注・末梢的な部分の語りばかり指摘する)も亦誤りである。

追悼文はただ善行を讃えればよい、という考えもあるが、氏の生前、誉褒のみならず毀貶もあったことは事実であるし、氏自身も熟知しており、自分に対する批評も周囲に要

望していた。建前と本音の使い分けや、本人の前ではお世辞をいい、陰でこき下ろすような姿勢に対してこそ、純粹純情な氏は情熱をこめ声を大にして批評の提唱を一生続けた。氏の心を心とし敢て事実を記し反論を述べ、その功績を讃える所以である。今こそ義太夫人は氏の遺志を活かし、理解とはベタ褒めではなく、批評とは悪口中傷ではないことを認識し、斯道の向上・発展のため、批判精神を以て是は是、非は非とする真の批評の確立に向かつて一致協力しなくてはならない。

なお、この文は紙面の都合上、初めの部分二十一行だけが前号に掲載された。それが、故人を誹謗した、という手紙が来たが、追悼文でそんなことを書くはずもなく、その人に会ってみたら、実は読んではおらず、読んだ人に聞いた由だったので、最後の三行も読落とさないように勧めた。皆で御冥福を祈りたい。合掌 (社団法人義太夫協会監事)

訃 報

内野正幸(筆名三恵)氏(常任相談役) 56年2月5日御逝去
女流義太夫にあふれるような愛情を注いで下さった内野先生が亡くなりました。先生は「竹本小土佐 芸術と人」(新泉社)という大変な労作を著わし、私共のこの小さな会報にもたびたび原稿をお寄せ下さいました。御冥福を心からお祈り申し上げます。

素義会の現状と 箱屋稼業

戸叶 琢通

昨年、義太夫節保存会が、国から重要無形文化財の総合指定を受けることになり、目出度く発足に到りましたことは、同業皆様方共々御同慶に存する次第です。今年はいい年でしたと各御師匠にも申上げたのでございますが、数年来の素義界に就きまして、実のところ、その衰退ぶりを述べようかと思ひ立ち、ペンをとりました。勿論、出来れば昨年に続いて、義太夫界の慶事を願って、名案なんて呆け頭には無理なんです、一応提案したい考えであります。私も、このハコヤを職業といたしまして、二十余年にもなるかと思うので、門前の小僧というやつで、業界の移り変りを見て参りました。

戦前に就いては、現在尚、健在の親方やおかみさんから、一杯御馳走になつては、時にかかという位、いろいろ聞き覚えて居り、想像の世界の箱屋の在り方知って居ります。花札の遊びを知らないようでは、ハコヤにはなれないとか(嬉しい話です)、大正初期でしようか、ハコヤ四十名とかも聞いております。ともあれ、戦後やと、各芸能部門が息を吹きかえし、古典芸能一般が夫々盛り返して来た時期、斯界に御厄介になつた私でし

た。仍て、その時期からの素義会は、五十義会、浄曲会の兩大組織がありまして、技を競つたようでした。現在、大日本素義会という多分鈴木一光さんの命名の採用でしたでしょうか、初回第一回から会長を聚楽の会長・加藤清二郎さんと、御病氣乍ら、多大の情熱を持ちまして、素義会の要めとなる存在です。毎年二回春秋に文案の御師匠を迎えて審査会が行われて居りますことは、皆様御存知の通りでございます。目の当り、十何年にもなろうこの審査会の変遷を思い、時勢の業界へ及ぼす凋落ぶりを知っておる者です。現在、ドーナツ現象というのかどうか、都心の素義の太夫さんも減り、盛んなのは、神奈川県辺りなのかと思う程でございます。それを生意気にも、素義の御連中を長い間お世話するといふのか、親方から教わつたように、舞台の幕引などをして居りますと、素義の旦那衆は遊びなのだからそれでいいと申しますればその通りでもあり、又、遊びではあるが、上達して聴衆を魅了したいのだと、共に同感であるのですが、一種の社交界でもある義太夫ファンの御連中に、今ひとつ意気の上らぬ現在で淋しいです。

私共何人かの数少い箱屋もこれでは商売にならぬのが現況といえます。先日、宝井馬琴先生とお話した折り、吾々は日傭とりで、社会保償は何一つないと言って居られました。その為の芸団協の発足も、あるにはありましたが、不充分といえるのではないのでしょうか。病氣も怪我も自分持ちだ、無理して働いたつてしようがないと、言うには言うのですが、何商売もそうは変わらないわけで、暮の三越での大会では、数日前から、荷上げの仕事が、果して仮に出来るのだろうか、事実、夜も眠られぬ思いを致したのでした。荷上げの途中、パタ屋の使うリヤカーがパンク致しまして、一万円とられました。パンクの儘、時間に間に合せる可く頑張つたのでした。これ又自分もちです。そして、老令年金を頂く年令になつて、然も、重労働に一応は堪えられたという喜びも味わつたのであります。然し、この箱屋なる職業が、そのみで生活を支える仕事ではない現状、それが情なくもあるのです。幸い、各御師匠様の御陰をもちまして、細々とした具合です。ある師匠は、これは立派な御意見で傾聴致したのですが、荷上げがなくなりやあ、よくしたもので、やり様はあると安心させて貰つたのですが、これも具体策が必要なのではないかと存じております。協会が大きくなれば、若い者を雇つて、車の運搬が望まれます。有難い表彰を受けまして健在の小林新吉氏を思うにつけ、裏方である吾々の危惧する所であります。社団法人義太夫協会という立派な組織があつて、その発展を計る上でも問題なのではなからうかと考えます。

文案もさること乍ら、伝統ある古えの娘義太夫、それにたずさわる一員として、以上僭越を省ずペンをとりました。今年、国際障害者年とかでございます。

(9頁下段へつづく)

アンケートから
—教師のための義太夫研修会—

六月二十日、教師のための義太夫研修会
は本牧亭の下足札が足りなくなる程の盛
況でした。お寄せ頂いた先生方の感想の
うちのいくつかを。

- 今後は、古典の教材にも、これまでにない
実感をもってのぞめるように思いました。
- 独特の雰囲気や酔いました。微力ながら私
も学校教材を通して多くの者に伝統芸能の良
さを話しかけていきたいと思えます。
- ため息の出る思い。語りと三味線の息がピ
タリと合うことの難しさ、さすがみごとです。
- 日本語の味わいの深さを改めて感じた。洗
練された日本独特の芸術に触れさせて頂いて
感謝している。
- わずかの知識しかなかった義太夫の鑑賞に
不安でしたが、吉川先生の御丁寧な説明の助
けもあって本物の良さを知ったような気が致
します。
- 女流義太夫がたくましく、多くの人を集め
ておられるのを知り感謝、特に若い後継者の
多いのは本当にうれしいことです。
- 太掉の音色に大変惹かれました。車人形は
珍しいものを見せて頂きました。これなら子
供達でも判ってくれるかもしれません。
- 一人の女性があればほど語りわけられること
に驚きを感じました。

○畳の会場にまずびっくり、でも落ちついて
なかなか良いものです。

○三味線についての解説、喜久太夫さん、み
どりさんの掛け合いという新方式で大変
わかり易く面白かった。毎年色々の方法を試
みておられることに敬意を表します。

○私の学校は男子校で、男子生徒はこうした
催物に比較的関心が薄く馴染もうとする気持
に乏しい次第で心苦しく存ずるものです。私
自身には大変良い勉強になり何とか一人でも
理解者を得たいと所望しております。

○初めてでしたが充分楽しませて頂きました。
ただ地合の部分が決く、低く少々聞きとり
にくかった。語る人の出しやすい音域で語るこ
とはできないのですか？

○車人形は、遣い手が若くても(編集部注・
当日四代目西川古柳氏が御病氣のため、御子
息が舞台をつとめられた)見る者を楽しませ
てくれて十分です。こういう伝承芸能が益々
発展されますよう祈って止みません。

○初めて見ましたが追力がありました。
膝送り・中入りの解説も親切、御苦労様。

(短 信)

去る5月25日、芸団協総会にて、竹本綾太
夫氏(事務局長)が、芸団協の理事に選出さ
れました。任期は二年、またまた忙しくなり
そうですが、よろしくお願い致します。

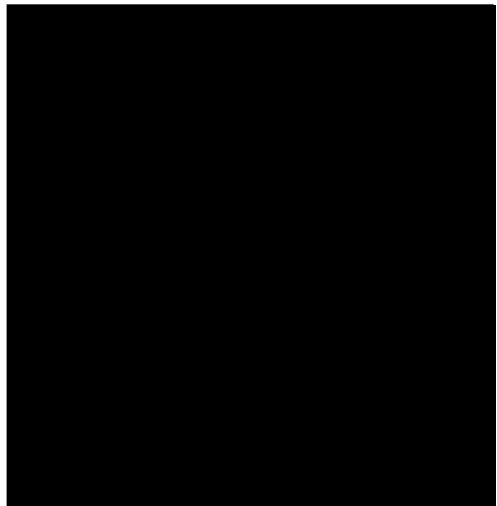
(8頁より)

曾て老人クラブや養老院を、毎月くらい慰
問に出掛けた時期がありました。昔の娘義太
夫の再現かと思える美人揃いの本牧亭女流義
太夫の前座の皆さん、前途は有望です。箱屋
は絶滅かもしれませんが、義太夫そのものは、
日本の誇る芸術と思えますので、一層の御精
進を願って擱筆と致します。

特別会費二口以上の方

石川	善三様 (56年度4口)	二〇〇〇〇円
石塚	晃玉様 (56年度2口)	一〇〇〇〇円
井上	一二様 (55年度2口)	一〇〇〇〇円
内野	正幸様 (55年度10口)	五〇〇〇〇円
景山	正隆様 (56年度2口)	一〇〇〇〇円
加藤	利一様 (55年度2口)	一〇〇〇〇円
加藤	道子様 (55年度2口)	一〇〇〇〇円
菅野	光雄様 (55年度2口)	一〇〇〇〇円
小原	浦次郎様 (55年度4口)	二〇〇〇〇円
品川	欣司様 (55年度2口)	一〇〇〇〇円
菅原	大常様 (55年度2口)	一〇〇〇〇円
高野	俊雄様 (55年度2口)	一〇〇〇〇円
都築	健一様 (55年度2口)	一〇〇〇〇円
松前	重義様 (55年度2口)	一〇〇〇〇円
森	寿美様 (55年度2口)	一〇〇〇〇円
和田	博様 (55年度2口)	一〇〇〇〇円

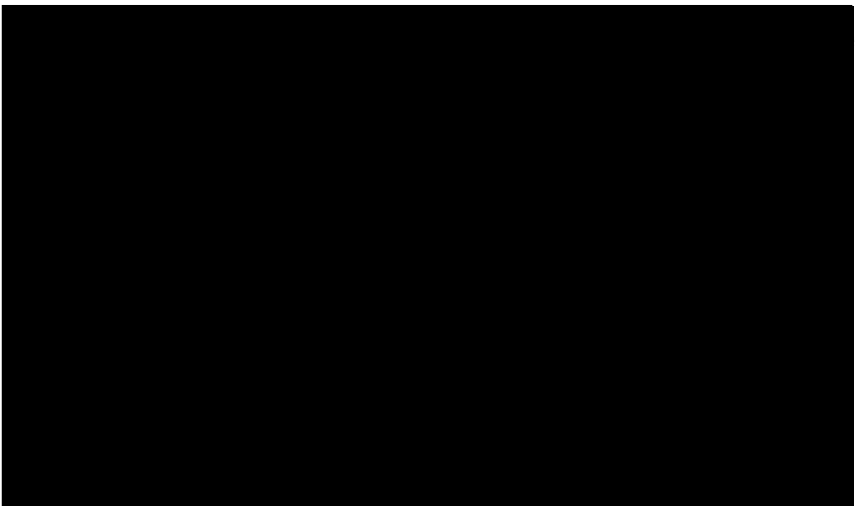
新入会員御紹介 (敬称略)



寄贈

- | | | |
|--------|-------------|----|
| 和田 博様 | 近代日本の女性史5 | 一冊 |
| 豊沢時若様 | 「芸道の花開くとき」 | 一台 |
| 小林新吉様 | 白黒テレビ | 一組 |
| 藤田昌子様 | 本牧亭染屋用湯呑み | 一組 |
| 鶴沢英治様 | 肩衣・袴 | 一組 |
| 豊沢新兆様 | 肩衣 | 五枚 |
| 八木原綾子様 | 明治・大正期文楽座番組 | 三冊 |
| 竹本綾之助様 | (表装済) | 三冊 |
| 若村悦子様 | 肩衣 | 三枚 |
| | 肩衣 | 三枚 |
| | ヤッコパチ | 一丁 |
| | 五行本 | 三冊 |
| | 三味線糸 | 多数 |

住所 (住居表示) 変更



訂正

寄附 (昭和55年度)

- 〔特別会員・賛助会員の部〕
- 小田切一鳳様 二〇〇〇〇〇円
 - 竹本越駒師御遺族様 一五〇〇〇〇円
 - 河野 国声様 一〇〇〇〇〇円
 - 渡辺 兼造様 三〇〇〇〇〇円
 - 藤田 昌子様 一〇〇〇〇〇円
 - 和田 博様 一〇〇〇〇〇円
- 水慈善公演および義太夫協会法人化十周年
義太夫節保存会設立記念行事に関しては
前号を御参照下さい。
- ＊前号発行後、松前重義様より慈善公演に
一〇〇〇〇円、鶴沢寛乃佑様より記念行
事に二〇〇〇円追加御寄附頂きました。

お見舞

竹本三駒さん、交通事故の巻きごえで骨折、
娘さん宅で療養中

鶴沢駒登久さん、肺炎で板橋区医師会病院に
入院・加療中

暑い最中、くれぐれもおだいじに

編集後記

郵便料金が大中に上った
ので印刷物は極力、20・21
日の本牧亭でお渡しして経費節減をはかって
います。よろしく御理解下さいませよう

そんな訳で23号の割りつけは白々明けまでの
一夜漬、この次にはたっぷり時間をとって変
化ある紙面を心がけたいと反省しきりです。